

養父市八鹿町でマルガタゲンゴロウを確認

泉山真寛

マルガタゲンゴロウ *Graphoderus adamsii* は、全国的にも個体数が減少し、環境省のレッドデータカテゴリでは、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定されている。高橋 (1997) が、兵庫県の但馬地方にて、但東町畑山 (1963)、豊岡市福田 (1975)、城崎郡松ヶ枝 (1975)、養父郡水ノ山 (1955) で採集した記録がある。近年では、牧田・中安 (2011) をはじめ、但馬地方の豊岡市内で採集された記録は存在するが、2022年4月に養父市八鹿町内で初めて確認されたので報告する。



図 八鹿町産マルガタゲンゴロウ

採集された場所は、八鹿駅から約3km離れた場所に存在する貯水池である。標高は54mで、貯水池の下には水田が広がり、マルガタゲンゴロウを採集した場所の水深は30cmから40cmであった。西城 (2002) によると、マルガタゲンゴロウの個体数変化では、成虫が8月上旬に急増し、10月上旬まで多数採集されたと報告されている。本調査は4月の下旬から5月上旬にかけて実施したため、採集した個体は越冬した成虫であると考えられる。なお、この貯水池で大型の水生甲虫であるガムシ *Hydrophilus acuminatus* 及びクロゲンゴロウ *Cybister brevis* も複数個体採集された。

○引用文献

牧田習・中安慎太郎, 2011. 兵庫県豊岡市祥雲寺の(コウノトリの郷公園とその付近)の水生昆虫. きべりはむし, (33): 1-3.  
 西城洋, 2002. 止水性水生昆虫の生活史における養魚水田の役割. 日本生態学会誌, (52): 155-165.  
 高橋寿郎, 1997. 兵庫県産水棲甲虫目録 (1). きべりはむし, 25(1): 21-30.

(Masahiro IZUMIYAMA 兵庫県養父市)

神戸市西区におけるヒメボタルの初報告

久保彬葉・久保柚葉・久保嘉靖

ヒメボタルは、ゲンジボタルやヘイケボタルと異なり幼虫は陸生で生息地は森林などが多い。兵庫県版レッドリスト 2022 では要注目種に指定されている (兵庫県, 2023)。神戸市でのヒメボタルの分布は神戸市北区、灘区六甲山町等での記録がある (八木, 2007) が神戸市西区での公式な記録はない。2022年6月、夏休みの自由研究で神戸市西区周辺のホタルの分布を調査していたところ偶然にヒメボタルの群生を発見した。神戸市西区伊川谷町前開の護法谷大池近くの宝光坊川流域森林部分 (写真3)。1匹を採集し自由研究に標本を添付した (写真1, 2)。

また、2023年1月と2月にイカを使用したトラップを各20個しかけて幼虫採集を試みた。蓋に穴を開けたフィルムケースにイカを入れたトラップを地中に埋めて1週間後に回収した。結果は野生動物に荒らされ、回収できたのは計9個だった。残念ながらヒメボタルの幼虫は入っていなかった。西区では自然も残された場所も多く、ゲンジボタルやヘイケボタルの生息地も多く見つけられた。今後もヒメボタルの観察を続けていきたい。

兵庫県立人と自然の博物館 八木 剛先生には神戸市西区のヒメボタルの報告について情報を頂きました。有難うございました。



写真1 採集したヒメボタル.



写真2 採集したヒメボタル.



写真3 生息地.